

令和6年度  
地域循環共生圏づくり支援体制構築事業  
キックオフミーティング 資料

活動団体の活動におけるテーマ

『森と海を繋ぐ関係人口の創出と

持続的な環境保全活動の推進』

活動団体の活動地域：宮城県石巻市牡鹿半島荻浜地区

活動団体名：合同会社もものわ

中間支援主体名：一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン

# 活動団体と地域の紹介

## 活動団体の紹介

### 合同会社 もものわ

#企業研修 #チェーンソー技術指導 #各種講演活動  
#森林環境ワークショップ #木材関連商品開発

森と人との関係を最適化する「海に良い影響を与える森林整備」をテーマに掲げながら、チェーンソー技術指導を軸に、その過程で産出される杉材の加工販売や研修事業等、**森林資源を余すことなく活用する森林資源利活用事業を展開している。**



## 活動地域について

### 【概要】

活動拠点となる石巻市荻浜地区は、東日本大震災により居住エリアの多くが津波による被害を受けた。各種復旧事業には数年を要し、各所に予定されていた復興公営住宅の建設が遅れたこともあり、当初居住していた住民の多くが別の地域へ移住し、**結果として同地域は過疎高齢化が加速度的に進んでいる。**一方で、**震災をきっかけに多様な人が集まり、様々な企業や団体が誕生**している。

### 【自然環境】

荻浜地区がある牡鹿半島はリアス式海岸のため海と山が隣接しており、山からのミネラルが直接湾に流れ込む地形である。そのため、カキやノリなどの養殖に適した場所であり、**水産業が主要産業である。**しかしながら、**ここ5年ほどで漁獲量が減り、魚種の変化や磯焼けが深刻化**している。特に昨年は例年以上に海水温が上昇し、春から今まで獲れていた魚種が獲れなくなり、養殖のホヤやホタテは5～9割がへい死するなど、漁業者も危感を募らせている。また、各浜の後ろをぐるりと囲む山は、戦後に植えられたスギ林が輸入材の影響で価値がなくなり、手入れがされず荒れているだけでなく、風倒木や土砂の流入により沢が埋まり保水力が低下している。これらの影響により、昔は多く見られたウナギやアユ、サケ、シロウオなどが激減し、湾内の海水温上昇や山からのミネラルの遮断など多くの弊害をもたらしている。**近年は二ホンジカの急増により、新芽や下草が食べられ、森林環境がさらに悪化する原因となっている。**

# 活動計画（概要）

## 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

- ① 地域内外に仲間がいて、ヒト・モノ・カネ・情報が循環する体制の構築
- ② 科学データに基づいた整備による、豊かな里海山の連環の実現
- ③ 水産業やローカルSDGs事業の自走・地域雇用の創出

## 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

活動団体である（同）もものわの役員は、3名が東京在住で、定期的にオンライン会議を通じて、意見交換をしながら現地社員が活動を展開するスタイルをとっている。

本事業のプラットフォームもこれに近い運用を想定しており、**コアとなる現地活動団体を軸にしながら、都市部をはじめ、さらには同じ課題を持った全国の漁村エリアなどとも連携、活動を展開していく。**また、**専門的な知識の補填やデータ取得・分析をについては、東北大学をはじめとした研究機関や環境コンサルなどの専門家と連携を図っていく。**

## 地域の現状

- ・ 正しく整備できれば、豊かな自然資源となるポテンシャルを有している。
- ・ 震災をきっかけに多様な人が集まり、様々な企業や団体が誕生し、根付いている。
- ・ 震災による居住エリアの多くが被害を受け、過疎高齢化が加速度的に進んでいる。
- ・ 山や海などの自然環境の変化（二ホンジカや放置林の増加、海水温の上昇、磯焼け）

## ローカルSDGs事業として取り組む内容

- ① **森里海の連環を題材にした企業研修の開発**  
物理的に山と海が近い地理的特徴を活かし、牡蠣養殖などの水産業と山の関係を一体的に学ぶプログラムを開発する。
- ② **間伐材資源を活用した各種商品の開発**  
各種木工製品をはじめ、スギをったハーブティーの商品化を目指す。
- ③ **カーボンクレジット創出による事業手法の確立**  
山林整備活動により、グリーンカーボンクレジットの申請を目指す。

# 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

## 現時点での体制

事業主体	:	合同会社もものわ 活動団体
中間支援団体	:	一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン
連携団体	:	一般社団法人はまのね

### 協力団体

- ・ Active Life Lab → スタディツアーのコンテンツ強化
- ・ 東京牡鹿会（任意団体） → 首都圏からPRなどの後方支援 済
- ・ 一般社団法人Reborn-Art Festival → 桃浦ヴィレッジの提供（ワークショップ時など）
- ・ 宮城県漁業協同組合石巻地区支所および地域内の漁業者 → スタディツアーのコンテンツ強化
- ・ 一般財団法人まちと人と → 地域内高校との連携
- ・ 東北大学 → 環境データの取得、分析等

足りない資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む  
→域外の人材や情報

- ・ 他地域の自治体（尾鷲市、西伊豆町、南伊勢町など）
- ・ 地域外の企業（LINEヤフー株式会社、株式会社アーバンリサーチなど）

# ローカルSDGs事業の詳細

## 地域プラットフォーム（PF内のメンバーやコアメンバー）で生み出そうとしているローカルSDGs事業の詳細

### ① 森里海の連環を題材にした企業研修の開発（活動主体：もものわ、はまのね）

物理的に山と海が近い地理的特徴を活かし、牡蠣養殖などの水産業と山の関係を一体的に学ぶプログラムや森林整備のワークショップを開発する。内容としては、被災地域特有の防潮堤によって山と海が分断されたことでの今後の影響をイメージしてもらうことを基盤としながら、多角的観点から未来に起こりえる事象を予測し、対処法を検討するものである。将来的に懸念されている南海トラフ等による津波が発生した場合、他地域でも同様の事象が起こり得るため、荻浜地区の現状を自分事と捉え、参加者自身の今後の行動に繋げるきっかけに繋げていきたいと考えている。

### ② 間伐材資源を活用した商品の開発（活動主体：もものわ、フィッシャーマン・ジャパン）

各種木工製品をはじめ、主に伐採予定であるスギを余すところなく利用することを目的とし、スギの成分を抽出した化粧品づくりワークショップの展開や、杉を使ったハーブティーの商品化を目指す。さらには、欧米で人気の林業の動きをスポーツにした「ティンバースポーツ」を体験できるアクティビティを開発する。

### ③ カーボンクレジット創出を通じた事業手法の確立（活動主体：もものわ）

山林整備活動により、グリーンカーボンクレジットの申請を目指す。また、山林整備により海洋域が良好に変化することを、データの取得により科学的に明らかにし、ブルーカーボンの創出も同時に実現する。以上により、山と海の双方でのクレジット創出システムを確立したいと考えている。

# 3か年状態目標

## 2026年度末の状態目標

- ・ 事業の効果を定量的に評価し発信すること
- ・ 10年後を見据えた事業内容の軌道修正
- ・ カーボンクレジット申請

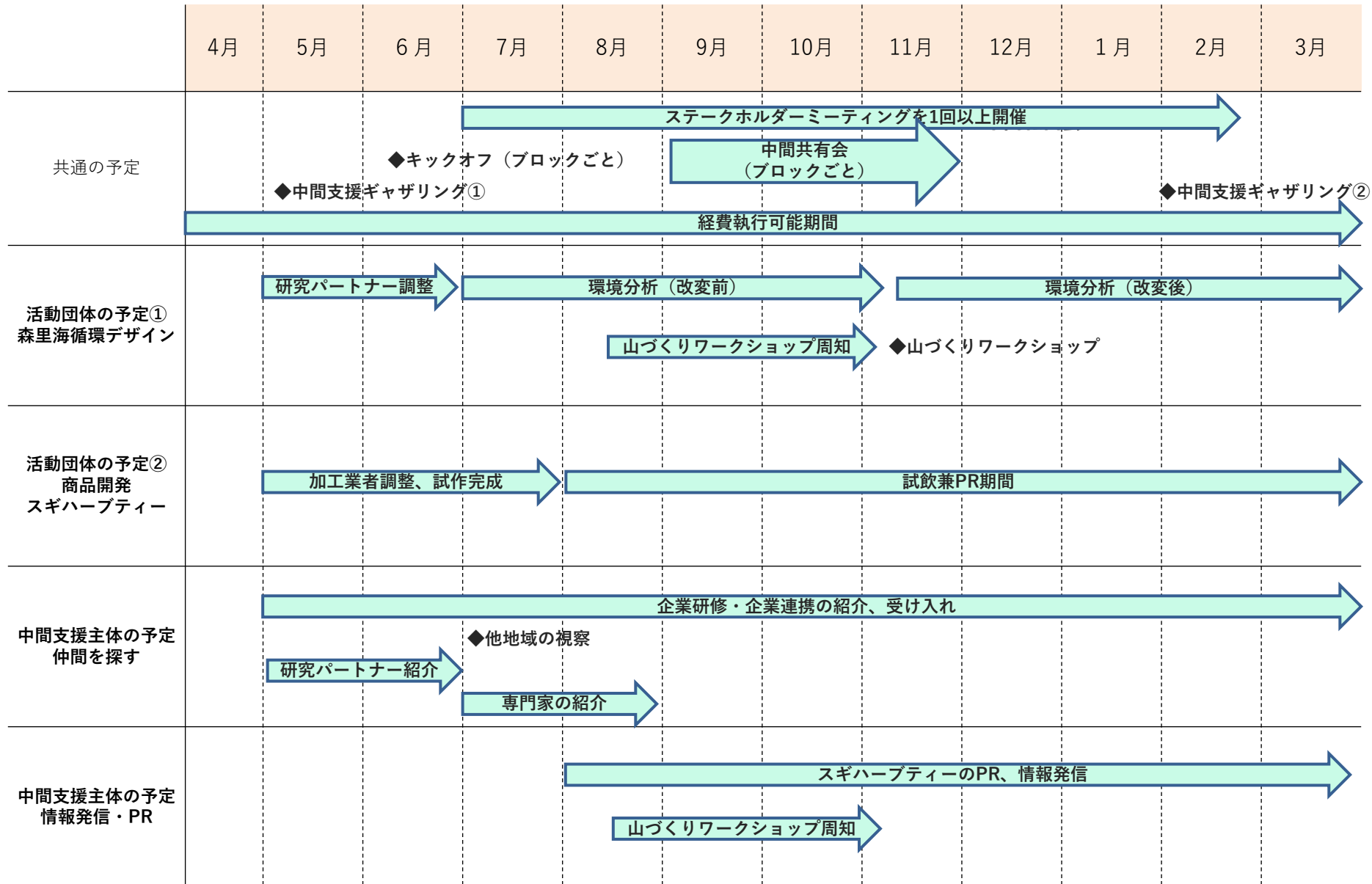
## 2025年度末の状態目標

- ・ ローカルSDGs事業の自走化
- ・ 他地域との比較検証
- ・ 研究機関と共にモニタリングデータの分析開始
- ・ カーボンクレジット申請準備

## 2024年度末の状態目標

- ・ 商品の販路拡大
- ・ 継続したデータモニタリング
- データを基にした整備活動の軌道修正
- ・ 企業研修の開始、マーケットインの視点から充実したプログラムの設計

# 活動計画



# 中間支援主体より

中間支援主体の紹介

## 一般社団法人 フィッシャーマン・ジャパン

#水産業の担い手採用・育成事業 #水産業のPR

#水産物の販売・輸出

漁業のイメージをカッコよくて、稼げて、革新的な「新3K」に変え、次世代へと続く未来の水産業の形を提案していく若手漁師集団。

2024年までに多様な能力をもつ新しい職種「フィッシャーマン」を1000人増やすというビジョンを掲げ、新しい働き方の提案や業種を超えた関わりによって水産業に変革を起こすことを目指す。



活動団体の取組へのコメント、中間支援の方針・計画

### 【コメント】

(同) もものわの活動は、地域での暮らしや基幹産業である水産業にとって、なくてはならないモノだと考えています。効果的に活動を推進するためにも、他地域や専門家との意見交換や、科学的なデータに基づいてPDCAを回す体制が重要だと考えています。また、企業研修やワークショップを通じて、多様な人に伝え、地域内外の仲間を増やしていきましょう！

### 【方針・計画】

地域外の企業・研究機関・一般の方を繋ぐ窓口となり、ヒト・モノ・カネ・情報の流れを生み出し、加速させる役割を果たす。

具体的には、以下を実施する。

- ・他地域事例の視察、意見交換の調整
- ・研究機関、研修を希望する企業紹介
- ・活動内容や開発した商品の発信、PR など